

## 博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	大阪大学	整理番号	A02
プログラム名称	超域イノベーション博士課程プログラム		
プログラム責任者	小林 傳司	プログラムコーディネーター	藤田 喜久雄

### 博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

#### [総括評価]

計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

#### [コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、（１）インターンシップ等により、個人、社会、グローバル、地域を横断する社会課題の現場に赴いて挑み、解決を考えさせる実践体験の仕組み、（２）企業や自治体等から提供されたプロジェクトにより、社会が直面する問題を考えさせる演習等を通じ、専門性の深さを確保しながら俯瞰力及び超域力を身に付けた学生を育てようとする試み、（３）平成 29 年度までの履修生全体で見ると文理がほぼ同数（文 44 名、理 54 名）であり、本プログラムで謳う文理融合が学生構成面でも実現できている点、（４）大多数の学生が本プログラムに対する満足感を表明している点等は評価できる。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、（１）社会の一員として自分の立場を広く捉え、自分の専門性や経験を社会で生かしたいという意識を持つ学生が育ち、多面的な見方、俯瞰力、グローバルリーダーとしての成長の実現性等が高まっている点、（２）修了者の就職先は民間企業 3 名、大学関係 2 名とバランスが取れており、本プログラムを途中離脱せざるを得なかった者もアカデミアに閉じこもることなく、広い視野が求められる活動に従事している点は、オールラウンド型の人材育成の成果が社会に認められたものとして評価できる。なお、今後は修了者の国際機関等、海外への進出も期待される。

事業の定着・発展については、本プログラムが学長直轄の「未来戦略機構」の一つに位置付けられ、大阪大学の他の 4 つの博士課程教育リーディングプログラムとともに、「国際共創大学院構想」に基づいて継続と発展を図ろうとしていることは評価できる。しかし、本プログラムの支援期間終了と新構想の発足の間にある新規学生の採用を行わない 1 年間の空白期間を解消するため、今後一層の検討が求められる。

事後評価結果案に対する意見申立て及び対応

機 関 名	大阪大学	整理番号	A02
プログラム名称	超域イノベーション博士課程プログラム		
プログラム責任者	小林 傳司	プログラムコーディネーター	藤田 喜久雄

意見申立て内容	意見申立てへの対応
<p><b>【申立て箇所】</b>                      (第三段落 3行目～4行目)</p> <p>しかし、<u>本プログラムの支援期間終了と新構想の発足の間にある1年間の空白期間</u>を解消するため、今後一層の検討が求められる。</p> <p><b>【意見及び理由】</b>                      上記の文章は、プログラムでの教育活動全般に「1年間の空白期間」があるように解釈されかねない。                      既に在籍している履修生への教育については、事後評価調書の23ページの31行目から32行目の箇所および40ページの20行目からの段落に明記しているとおおり、大学独自の経費により確実に継続していくことから空白期間は生じない。                      新規の履修生の受入れについても、事後評価調書の23ページの32行目から33行目の箇所および41ページの35行目からの段落に明記しているとおおり、卓越大学院プログラムに向けた構想を検討中であり、首尾よく初年度に採択されれば、平成30年度の中盤での履修生の受入れは可能であり、それにより遅れる期間は半年ほどになると見積もっている。</p>	<p><b>【対応】</b>                      以下のとおり修正する。</p> <p>しかし、本プログラムの支援期間終了と新構想の発足の間にある<u>新規学生の採用を行わない1年間の空白期間</u>を解消するため、今後一層の検討が求められる。</p> <p><b>【理由】</b>                      現段階として新構想の発足に向けて着手しているものの、新規学生の採用を行わないことから、空白期間が生じると判断した。なお、既に在籍している履修生への教育について言及する意図はないため、申立てを踏まえ、「1年間の空白期間」の内容が明確となるよう、上記のとおり文言を追加する。</p>